

特1-278

本草図譜卷之七十目錄

果部 味類

山胡椒 <small>ソウジヤク</small> 録 <small>所</small> 物印忙 <small>ハヤシ</small> の圖	一種	胡椒 <small>コウカ</small> 物印忙 <small>ハヤシ</small> の圖	蔓椒 <small>マンカ</small> 物印忙 <small>ハヤシ</small> の圖	蜀椒 <small>シヤクカ</small> 物印忙 <small>ハヤシ</small> の圖	秦椒 <small>シンカ</small> 物印忙 <small>ハヤシ</small> の圖	竹葉椒 <small>チヤクヤクカ</small> 集解 <small>しやくしやく</small>	崖椒 <small>ツツカ</small> 物印忙 <small>ハヤシ</small> の圖	地椒 <small>チカ</small> 物印忙 <small>ハヤシ</small> の圖	同	畢澄茄 <small>ヒヤウテイカ</small> 物印忙 <small>ハヤシ</small> の圖	一種
八	七	五	三	一	一	二	四	不詳	六	七	九



本草圖譜







果部 味類

本草図譜卷之七十

東都 岩崎常正著  
男 岩崎信正  
門人 小山廣孝 校

臬蘆	茗	醋林子	鹹草	咸平樹	食茶	吳菜
さし	ちや	か	上同	附録	あ	か
あ	あ	あ	あ	不詳	あ	あ
		六	五		七	十
	一	一	一	酸角	鹽麩	一
	種	種	種	上同	子	種
	紅花			同上	あ	
	廿		六		十	十







奈椒 あなごう  
 樹高一丈余不到る熟れ息蕪ふ似て細く樹く細く鋸齒あり葉  
 の中淡緑の斑あり枝三四分の刺を生い樹小椎と嶋とあり  
 椎あるらりの房を介て小黄花を横樹て葉を物そは嶋ある  
 口の花 筒すて葉を結み形赤小豆の大ききや氣孔ある  
 干袖皮の粗く秋に熟れ赤黒色飽ふ二ふ分る中細  
 黒子あり老澤ありて蕪暇の粗く此樹周り三四寸より以上の物を以  
 てより木と多し蕪を解はより皮小丸落ありて蠟蠟の背不似たり  
 此皮をかきると云野別日光山各産す

波丹 土椒 蜀椒  
 條下









本草図譜 卷之七十一

本草図譜 卷之七十一 三 澤園閣

崖椒



山野不自生多樹  
尤多物一丈余  
至三枝幹刺多葉  
似奈椒不似長  
香似臭氣帶  
花実奈椒より多  
く付く香の思 食用  
小宜くわん

いぬさる  
のろん  
セウ

椒類數種ある中不假馬の國朝館の御籠寺山中より出るものを  
朝倉山椒と云ふ又淨香山椒と云ふ上呂より葉用不入る今此  
種處々不察一樹高き一文許り枝幹刺多き物を以て上岳とい  
刺ある物亦実を下せし生けることあり此を次と云ふ葉ハ奈  
椒不似て同く小く刺ありて老澤ありて縦紋高く白斑あり春の枝  
小黄花を横生し推するもの実あり雌あり物花ありて実を結  
み形異葉不似て同く奈椒に比し裂る中不黒子あり老澤あり  
此ハ紅色氣孔あり殼の二つ裂る中不黒子あり老澤あり  
て氣の眼の如くこれ椒目あり味ハ甚辛く氣若香あり





本草図譜

卷之七

上 澤園隠菴

田村氏の説小肥後より小  
八丈島より産椒不似て莖軟  
弱く蔓不似て実の蔓不似て人  
と云ふ此物甲別より其形  
田村氏説より其如し



蔓椒

つるさへ七寸  
後肥



本草図譜

卷之七

上 澤園隠菴





胡椒

スワルト。ペーブル。葡

和産物。實は船  
載り物あり。物印は  
不寫生の圖三種  
あり。蔓生なり。蔓  
は黄褐色。葉は軟  
五味子に似て短く  
鋸齒あり。互生に  
葉の間は二寸許り  
の長さ。穂は角を  
北五味子に似たり。  
一穂は數十子を  
結ぶ。下葉は大き



胡椒子の如く黒色  
あり。一ツの白点あり  
慎微説と云ふは  
その如く。時珍  
兼如麻豆山藥  
輩と云ふ誤り如  
く。鬼刀舶来の実  
の形状は品ありて  
胡椒子より小なり  
皺ありて黒褐色  
味は辛し







一種  
 物印此小載る圖蔓の形前条子  
 同く葉の楓葉不似て鋸齒あり  
 實の白色あり穂の末數十顆  
 攢生此物通雅の玉椒

一種 ピール罌 ペール葡萄



同

与れり  
 度々涅斯不  
 載る圖葉の  
 形前条と同  
 く実の前条  
 より多し



本草図譜  
 卷之十一  
 二





物印此不載る圖あり胡椒  
 椒の類不入る物之木本あり  
 七葉の天竺桂に似て穂は  
 角の字を結ぶ黄色ありや  
 梧桐子あり大に其穂上は  
 向う茶の説に形状あり  
 白く似胡椒色黒顆粒大  
 如黒豆と云ふ因て今暫く  
 載り



山<sup>え</sup>  
 胡<sup>こ</sup>  
 椒<sup>さ</sup>  
 録<sup>ろく</sup>  
 附



和産あり唯實りし能未なり  
 形胡椒に似て楡木の味は辛  
 胡椒に似たり

畢<sup>ひ</sup>  
 澄<sup>じやう</sup>  
 茄<sup>か</sup>

本草図譜 卷之七十一 七 滯園 附録







本草図譜  
卷之二十一  
陸園



一種

せうぶのり江  
せうせうがく  
とろつげが

山野にあり葉のらくらふ  
似て硬く夏に葉の間に小  
さき淡黄色の花を開き実を  
結ぶ熟して黒色乾く時  
皺あり胡椒に似たり味は  
辛く枝葉の香は石菖蒲  
似たり此物山胡椒は一種  
の類なり其の葉を採り  
脚の軟弱を以て之を載は

本草図譜  
卷之二十一  
陸園







吳茱萸

ぬらち 和名 針  
 いちぢ 和名 本草  
 かぶ 和名 上同

本草図譜  
 卷八十一  
 九  
 洲  
 閣  
 蔵  
 本





本草圖譜 卷之七十一

艾子 本草和各引醫 辟邪 公初 便覽  
揶 庭 藥 菜 莢 通

漢種和産二種あり和産の物 時多し和産の物 京の梅津村より  
出ると田村氏云り又信別浅間 駿外富士山よりありと樹高さ  
丈斜皮龍襪色なり節多し葉濃み似て二葉七葉九葉對生以  
枝幹小對生以夏月枝の權小黃白色の小花簇生以形蜀椒の  
花に似て粗く八九月小子熟以形秦椒に似て四角の秦椒の如く  
裂以氣孔あり紫色を帯び紅色を帯ぐ時々秦椒の大本の味ひ  
氣裂し葉用に入らず時々の説不一種粒小者入葉為勝と云  
是より此物根の對する處より科條を對以銘ち裁りて漢種は亦  
同

一種

朝鮮年中瀬る處の漢種より枝幹和産より肥大なり葉の大き  
葉日奈皮に似て軟く一枚より一葉五葉七葉對生以夏月枝の  
梢小黃白色の花を攢簇以形柚花に似て小なり十月小実熟以  
紅色を帯び蜀椒に似て四角なり稀に椒目の如く點あり此より  
漢種より下品なり和産より臭氣強し湯を透すより服用分  
了れは極煩一説より打て顆粒大なり是食茶葉より云々  
食茶葉非ははは漢種よりなり

本草圖譜 卷之七十一







一種  
漢種  
の物

本草図譜  
卷之七  
十一  
澤蘭  
附註







食菓シヨクカ 蔓マ

あまぐさアマグサ 和名ワナ 鈔シヨ

かぶさカブサ の さんせうサンセウ

あまぐさアマグサ せんせうセンセウ

あまぐさアマグサ

あまぐさアマグサ

本草図譜 卷之二十一 三十一

本草図譜 卷之二十一 三十一





諸國此野不銘一樹高三二丈余葉一茎不尤葉十一葉對生して  
 添葉の如く葉の莖直葉ありて葉初は細く夏月枝の權不  
 穂を生して枝を分ち一尺許り下葉細く白色の花多く横開以後  
 添葉の如く葉の莖實を結ひ外皮白色の塩を生じ味は  
 鹹いこれ木鹽なり其仁又鹹なり添葉あり小なるは鹽麩子  
 あり秋不至る葉の莖小黄色の花袋の如き物を生じ其形又あり  
 て鹿角に似て小なる形一多し中空ありて硬しこれ此の葉あり  
 如倍子と名づけ俗に小なるは粉と云ふ  
 婦人齒を潔くし用ひ此の粉木條ありて樹秋不至る紅葉を  
 干て落つぬるを月干と云ふ

鳥 鹽 膚 木  
華辰 正字通  
 鹽 醋 子  
廣東新語 以上実各

房州豆別其外諸國暖地不銘一樹高三二丈許り周り三三尺枝  
 幹葉の莖不刺葉多し葉の黄葉に似て細く莖朱色あり秋  
 月權不花を開き房を向て小き淡黄花を開き実を結ぶ形奈  
 椒に似たり熟する時紅色氣味奈椒に似て懸此実鳥糞  
 飴に似たり不あり古のいせうの俗あり

鹽 麩 子  
 ぬるに 濃 ぬるに 江 産 ぬるに 別 興  
 かつら 勝 軍 木 かつら 木 子 柳 柳  
 かつら 木 子 外 臺 主 証 類  
秘 粟 本 草

本草圖譜 卷之七 鹽 麩 子





本草図譜 卷之二十一 雜草

本草図譜 卷之二十一 雜草



鹽麩子  
好うそ

鹹草

附錄

ハチチカウソウ 大和  
本草

あしまた 八丈島  
方言

豆列八丈島不銘くあり又房列豆列野の海邊不銘し葉ハ獨治不  
似て深緑色莖ハ細ハ黄汁出つ三年を經る高さは二尺許り小  
白花傘状を有し白莖不似たり後葉を結ハ條理あり大さ  
麥粒の如し此草八丈島ハ常ニ米の取之介て食用あり

一種

あしまた

絶列海濱ハあり此草八丈島ハ似て冬枯さうり江戶ハ之白  
日ハ八丈島ハ似し葉ハ八丈島ハ似たり葉ハ光澤あり花葉ハ  
不又同一根幹を經て枯此物毒あり











本草図譜  
卷八十八  
十二  
蘿蔔



本草  
圖譜  
言  
卷之  
七  
十一  
地  
澤  
瀉  
圖  
譜  
附  
註

全一ノノ

紅印





本草図譜

卷之七

七

醋林子



醋林子

かき

やま

かき

あか

やま

諸國山中自生多一樹の梨に似て枝幹細く春月嫩葉小白毛あり  
 葉の林檎に似たり花五瓣白色梨に似て秋月実熟以又梨に似て  
 小く瓢大に肉少皮不沙故あり初は青く熟すれば紅色を帯  
 び味は甚酸し作別あり食物不加酸味を助くるなり此樹皮  
 を煮ると味は酸味を帯びる不周也





一種

樹花実より  
似て唯葉の先  
は鋸齒細き物



茗

茶

女がまらさ

あやひさ

沖人水

道山茶

テア羅

テ上荷

楊責

甘草

正字

紫玉玦

草魁

龍章

茗菜

通雅

不夜侯

酪蒼頭

清人樹

上同

茶の山は黄黒色ある地不裁了下田ありて育一かて葉の茶梅不似てあはれ  
花の白梅不似て動く大く香あり其の茶梅不似たり茶と梅との分ちる  
日測不郭璞の説を引いて云早采曰茶晩采曰茗一名茶と云山城宇治其外  
三月の節不入て廿一日を榭取をこれと云其の茶梅不似たり後  
云昔の字は今日と云これと云一字不似たり物之其初昔と各法る物茶  
と云後昔より已後の物を茶と云茶を培養する方地字治を以て上より其  
余和名  
吉野江別政所丹波紀別熊野駿別豫別日向筑後柳川其外諸國より不  
本朝茶を裁するは初製法示り諸書不載載りたりと云



一種

近年花淡  
紅色のり  
出づ形は茶  
と同葉莖  
嫩芽りる  
紫色を帯  
形は茶と同  
一氣味り亦  
同



あやめ

本草図譜

卷八十一

十一 藤園の成

本草図譜

卷八十一

十一 藤園の成





本草図譜 卷之七 十一 洲園 荆

皋蘆

さうあや ぶらあや

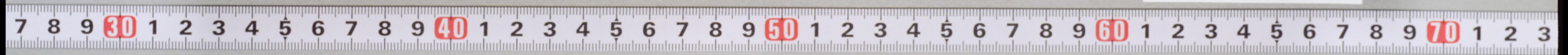


苦苧 通雅

荳 正字 通

荳 上同

山中不<sup>レ</sup>あ<sup>レ</sup>る形<sup>ノ</sup>状<sup>ハ</sup>荳<sup>ノ</sup>同<sup>シ</sup>く  
肥<sup>カ</sup>大<sup>キ</sup>小<sup>チ</sup>枝<sup>ノ</sup>粗<sup>ク</sup>葉<sup>ハ</sup>大<sup>キ</sup>二<sup>三</sup>寸<sup>程</sup>  
さ<sup>ニ</sup>寸<sup>許</sup>許<sup>ク</sup>葉<sup>ハ</sup>大<sup>キ</sup>花<sup>ハ</sup>白<sup>ク</sup>若<sup>ク</sup>似<sup>テ</sup>  
て大<sup>キ</sup>白<sup>ク</sup>色<sup>ハ</sup>多<sup>ク</sup>葉<sup>ハ</sup>を<sup>ト</sup>う<sup>テ</sup>製<sup>ス</sup>  
て<sup>テ</sup>煎<sup>リ</sup>以<sup>テ</sup>氣<sup>味</sup>稍<sup>ク</sup>酸<sup>ク</sup>なり

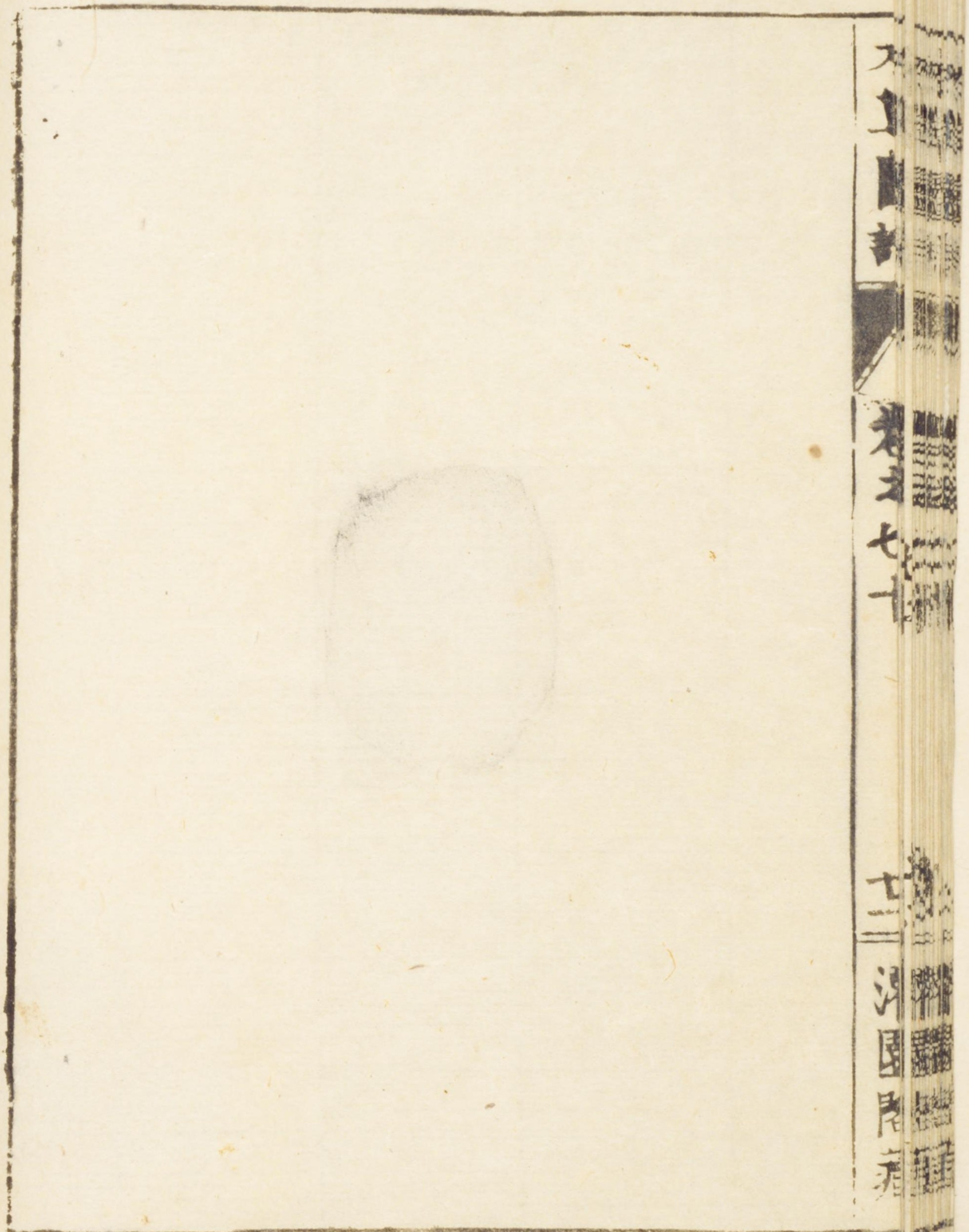




本草圖譜卷之七十一目錄

菓部

瓜蒂	白團 <small>解集</small>	一種	甜瓜	一種	一種
一種	一種	一種	一種	一種	一種
瓜	黃瓜 <small>解集</small>	一種	西瓜	一種	一種
一種	一種	一種	一種	一種	一種



本草圖譜  
卷之七十一  
菓部

